

は し が き

版画は、古くは奈良時代から大切な布教手段として盛んでありました。江戸時代においては、浮世絵版画として隆盛し、遠く西欧の芸術運動に大きな転機をもたらす程の影響力を持つまでに到ったことは、周知のところであります。

このように版画は、本来庶民に親しまれ、育くまれ、成長して来たものであります。幸い、学校現場にあって、文集や版画カレンダーなど、生徒相互の意志伝達として生活の中にしっかりと根を下しているようであります。

版画学習を通じ、版画特有の簡潔な表現の美しさを生徒自らの体験によって把握し、生徒一人一人の言葉として表出できれば、個々の心情をさらに深く耕すことになるかと思えます。生徒が生き生きと製作に取り組み、生活を築く喜びに連がって欲しいと願うものであります。

この研究報告書は、その意味において様々な角度から先生方の授業実践に示唆を与えてくれるものと思えます。ぜひ多くの先生方からご覧頂きたいと存じます。

昭和62年3月25日

新潟県立教育センター所長 星 智 信